

若い頃、お笑い芸人として活動してました。教師になる夢があり、悩んでいた時、テレビのある番組で先輩芸人の方に「他の教師にない能力と経験で生きた教材になれ」と助言を頂きました。「笑い」のプロではなく「笑い」を取り入れたプロを目指そう。助言通り小学校教諭を経て、教員を養成する教育学部の大学教員となりました。

① 遊びから学ぶ



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

「安心」でも笑いは生み出せます。そんな笑いが教育や育児の世界で広がれば、子育てや教育や育児ができるのではないかと考え、エデュテイメントの実践研究をしています。



エデュテイメントを語る前に質問です。「皆さんは、遊んだことはありますか?」。当たり前には「エスですよ。では続けて質問します。」その遊びから何かを得た

夢中のうち、たくさんの発見や思考

「ことはありますか?」

私はあります。幼少期は遊ぶことで頭がいっぱい。大阪の町中で育つため、祖母がいる広島に行くのが大好きでした。そこには都会にはないたくさんの自然があり、たくさん遊びました。特に生き物が大好きで、セミやバッタ、カブトムシなどの昆虫に限らず、ヤモリ、カエル、魚、大物では鳥

も捕まえたことがあります。一日遊び終えた私の頭は「次は何を捕ろうかな?」でいっぱい。そして、その思考はそれだけでは

終わらず、「どうやって捕ろうか」「バッタならば草にいる」「カブトムシは暗くならないと難しい」「魚は前の日に仕掛けをしておけば捕れる」。いつの間にか生き物のすみかや活動時間帯、捕まえ方を誰に教えてもらうわけでもなく自分のものにして、その知識を基

にたくさん試行錯誤してました。そこから興味を科学の世界に広げ、理科が大好きになりました。

この遊びから学ぶ経験こそがエデュテイメント【edutainment】(教育【education】と娯楽【entertainment】を合わせた造語)なのです。現在は娯楽施設や博物館などでも使用されており、「子どもたちは遊んでいるつもりだけど、楽しんでるうちに何かを得たり学んだりする」というすてきな教育手法なのです。

エデュテイメント実践の第一歩は遊ぶこと。外遊び、博物館巡り、家で一緒に料理作りでもよいのです。まずは子どもたちとたくさん遊んでください。その中で子どもたちが試行錯誤するような問い掛けをしてあげてください。子ども



子どもたちの知的好奇心を最大限に引き出すエデュテイメントの実践研究に取り組む福岡亮治さん。吉本新喜劇団員や小学校教諭の経験、専門の理科教育などを基に教育や子育てについて語ります。

毎月第1土曜掲載予定です

私たちはきつと遊びの中でたくさんの発見や思考をするはずですよ。

子どもたちの知的好奇心を最大限に引き出すエデュテイメントの実践研究に取り組む福岡亮治さん。吉本新喜劇団員や小学校教諭の経験、専門の理科教育などを基に教育や子育てについて語ります。

ふくおか・りょうじ 1976年大阪生まれ。京都教育大教育学研究科修士。吉本新喜劇団員、京都市立小学校教諭、市青少年科学センター職員を経て現職。専門は理科教育。著書に「教師のためのキャラクタートーク術」(たんぼ出版)など。